

都立 第五福竜丸展示館ニュース

2006.04.01
No.328

福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



船を見つめた四二〇万人の瞳―平和への願い

第五福竜丸展示館が開館して三〇年、これまで来館者はのべ四二〇万人にのぼります。展示館の感想文ノートや

アンケート用紙には見学後の感想が記されています。昨年暮れから三カ月かけて、ボランティアの会のメンバー

が三〇年分の感想文に目を通しました。そのなかから選り出した一二〇人の感想は、開館三〇年記念誌に収録されます。

見学後、感想文集や修学旅行の記録などを送ってくる学校もあります。来館者の平和への願いをつないでいきたいと思えます。

【感想文から】

◇夢の島に「夢」実現。九年間の保存運動・展示館完成（東京・江東 男）

◇私は家で母たちに第五福竜丸のことや原水爆禁止運動のことについて話しました。そしたら母が「そうなんだーわかった」となっとくして、父や妹たちにも話していました。そうやってみんなの耳に第五福竜丸のことを聞いてもらいたいと思いました。（東京・小学六年 女）

◇子どもからの手紙を読みました。学校で書かせたところもあるそうで私も教師としてやらなければならぬことがたくさんあると思いました。（二〇代 女）

◇地球は重い核兵器というものを背中に背負って歩きつづけている。現在は当時よりずっと優れた性能を持つ核ミサイルや中性子爆弾などが次々に開発されている。戦争を知らない僕たちから強く叫ぼう、行動しよう。（中学三年 男）



写真でたどる展示館30年 撮影・英伸三——八〇年代半ばから学校の見学が定着し増加した

大石又七さんの報告より

遺族に船員保険の年金適用

昨年暮に第五福竜丸乗組員遺族にたいしての船員保

乗組員もそうでした。

除・遺族年金の適用を実現させたことについて、大石さんの報告を抜粋しここに紹介します。

私たちは死の灰・放射能で被爆させられた上に大量の輸血でC型肝炎ウイルスまで背負わされ、二重の苦しみの中で、一二人の仲間が死んでいきました。

*

ガンを発病した者は一〇

ご存知のように、放射能被爆者の病気は一〇年二〇年後に出てきます。第五福竜丸の

ガンを発病した者は一〇人。私もその中の一人です。そして最初の子どもは奇形児

こちら特報部

隔離輸血治療で肝障害続出

大石又七さんへのインタビューを載せた東京新聞2月16日の特集記事



多くが「二次被害」犠牲

第五福竜丸 展示30周年

「生き残り」船員が語る

政治決着で「一応治った」

大石さんへのインタビューを載せた東京新聞2月16日の特集記事

2006年(平成18年)2月27日(月曜日)

福竜丸4遺族に年金

船員保険「輸血でC型肝炎」認定

米田が1954年3月に島の遺族年金の支給を認め、行った太平洋21号水爆実験で被爆した元乗組員の遺族に遺族年金が認められた。元乗組員の遺族への支給が認められたのは初め、申請していたのは、元乗組員4人の遺族が、船員保

05年10月までに支給がスタートしている。船員保険の遺族年金の支給条件は「職務上で死亡した」とされ、遺族側は「C型肝炎に感染していた」と主張。元乗組員4人の遺族は、船員保険の遺族年金の支給を認め、申請していた。元乗組員4人の遺族は、船員保険の遺族年金の支給を認め、申請していた。

毎日新聞 (夕刊) 2006年(平成18年)2月27日(月曜日)

第5福竜丸 肝臓病も遺族年金

「被ばく治療で発症」認める

米田に太平洋21号水爆実験で被ばくした元乗組員4人の遺族が、船員保険の遺族年金の支給を認め、申請していた。元乗組員4人の遺族は、船員保険の遺族年金の支給を認め、申請していた。

労を強いられてきています。私は船員保険法で遺族年金を何とかしてあげたいと、静岡の船員保険課の窓口を足で運び、長い交渉を続けてきました。その甲斐あってようやく窓口を開けてくれました。ただ、被爆とは関係なく、和協会評議員)

般の患者として死亡診断書にC型という字のある四人だけを認める、というわけの分からぬ認め方をしたので。そんな馬鹿な話はありません。C型肝炎ウイルスは一九八八年に発見されたのです。その前に死んだものの診断書に書かれていないのは当たり前です。ましてやその者たちの方が重傷だったから先に死んだのです。

寄稿

第五福竜丸展示館と私

山本義彦

私が第五福竜丸展示館を、戦後日本の歩みにとって大変貴重な施設であると実感

をするようになったのは、一九九〇年に歴史学研究会編「日本同時代史」(全五巻)の第三巻に執筆した一九五〇年代後半の日本経済社会の歴史をたどるといふ論文がきっかけでした。

むろん静岡大学に赴任した一九七三年当時、ビキニデー集会が大学施設を会場として開催されていたことも覚えていますが、私の生活にとって遠い存在としての事件であり、展示館でした。その後、ビキニ研究会で先の論文の内容を中心に話しする機会があり、さらには平和協会主催の講演にもお招きいただいたことで「遠い存在」が急速に「最も近い存在の一つ」となり、さらに「焼津市史」編纂という自治体史の作業過程によって、同化するほどの密接

な関係が続けさせて頂いているわけです。

つまり自己の研究課題の発掘、避けて通ることの不可能な戦後史のテーマとしての事件が、私をこの展示館のことを絶えず考えさせるように導いたのだと実感しています。

歴史の転換点

二〇〇六年、今年第五福竜丸事件から五二年、日本国憲法施行から六〇周年に当たります。アメリカの水爆実験により被災して久保山愛吉さんが尊い犠牲となられ、その後もこの事件がもてお亡くなりになった方々、そしてご遺族の皆様が耐え難い苦難の日々に思いを致したいと考えています。

大阪に居住していた私にとってのこの事件は、小学校四年生にあがる時期のことでした。そして「原爆マグロ」とか「死の灰」といった言葉が

聞かれていたことが思い出されます。なにか「コワイ」とか「気味が悪い」といった感覚を持ったものでした。

一方、この事件は、日本社会に大きな教訓と貴重な歴史を作り出してきました。それは第二次大戦後初めての水爆被災が原水爆実験と貯蔵の全面禁止を要求する運動をもたらし、また平和に生きることの大切さを人びとに印象づけ、あらためて日本国憲法の画期的意義を認識させるきっかけを与えたことです。

以来半世紀余、未だに当時の米ソ冷戦体制に刻印された日米安保条約の下で、日本国民は世界に胸を張って平和憲法を時の政府に遵守させてきたと言えるでしょうか？

平和への転換

このことに関して、最近極めて印象的なことがあります。まずこの二月、私の敬愛する一橋大学の元学長、都留重人先生が亡くなりましたが、その死後に出版された遺著「市場には心がない」(岩波書店)の中で、小泉構造改革が何等改革に値しない単な

る景気対策に終始してきたことを、極めて適切に指摘されました。一方で、二一世紀のこの時期に未だ日米安保の維持と強化の枠組みでしか問題を考えようとしてこなかった政治指導者の怠慢、あるいはアメリカへの盲従ぶりを批判し、日米安保を日中平和友好条約と同様に日米平和友好条約に変革し、日本国家が憲法の平和的理念に沿った国造りを行うことこそが、アジアに緊張から平和への転換をもたらす」と論じられていること

す。

第二に、アメリカを代表する言語学者ノーム・チョムスキーが、アメリカこそが「極覇権主義と国際ギャング団、あるいは国際テロリズムそのものの外交路線を實踐している」とし、平和への転換を国際的に実現すべきことを指摘していること(『海賊と帝王』「覇権か生存か」)。さらにはチャルマーズ・ジョンソンをはじめ多くのアメリカの知日派学者が、日本国憲法第九条の精神こそが世界平和の要石であることを強調していること(『世界の潮流は、

そしてこの日本を取り巻くアジア諸国でも、憲法第九条の偉大さが認識されてきていることに思いを致すことがとても重要です。

憲法擁護の意義

私たちはまた平和憲法が、今日までの日本の非軍事的経済発展をもたらしてきたことにも目を向けるべきです。このような歴史的に見て明らかでない教訓を無視して政権政党などは、改憲に走ろうとしています。これを許すことは久保山愛吉さんたちの心からの祈りにも似た願いを否定し、私たち自らがさらにアメリカ流世界支配戦略に荷担することになるのです。

私も近年の著作の中で、この事件と憲法擁護の意義を何度か記してきました(例えば『清沢冽―その多元主義と平和思想の形成』日本図書センター「原水爆の被害は私を最後に」の心を決して忘れず、胸に刻んで、また新しい一歩を踏み出そうではありませんか。

(静岡大学教授・第五福竜丸平和協会評議員)

憲法大好き・東京から平和を「お花見平和のつどい」開く



2001年4月に始まった「お花見平和のつどい」も今年で6回目となり、枝振りが豊かになった八重紅大島桜と第五福竜丸エンジンの間のひろばに100人の参加者があつまりました。

今年は花は五分咲き、好天で温暖、絶好の花見日和となり、午前11時、東京地婦連の田中里子さんの挨拶で開幕しました。主催の「第五福竜丸から平和を発信する連絡会」を構成する東友会、都地消連、都生協連、主婦連、地婦連、東京原水協、第五福竜丸平和協会が、それぞれの最近の活動についてワンポイントの報告をおこないました。

昼休みは、ミュージックタイムとして、若いミュージシャン「平和なお花見シンガーズ」の歌と演奏が披露されました。

午後は、「草の根からの報告と交流」で、被爆者、空襲被災者、横田基地訴訟団、横須賀の空母母港化反対の運動、平和と文化のとりくみなどについて発言がありました。高校生からは、被爆者の話を聞き平和活動にとりくむことが自分の生き方、との発言がありました。

つづいてエンジンを囲むように参加者が5グループに分かれて、全員発言のコーナーがつけられて午後3時に終了しました。(写真・佐藤雅一)

協会評議員会・理事会開く

第五福竜丸平和協会は、2005年度末の評議員会を3月20日に、理事会を25日に開きました。

今回の会議は、2006年度の事業計画と予算案の審議が主議題でした。06年度は開館30周年記念事業が中心となり、4月15日の記念コンサート、6月初旬からの企画展示「展示館30年のあゆみ」、記念誌の出版、6月10日の『『廃船』を観る会』、記念レセプション、9月からの企画「第五福竜丸の大補修展」などについて確認しました。また、記念事業の募金をひきつづき取り組むこと、エンジンの展示場の管理が協会に委託されたことなどが報告されました。

30年記念イベント

ドキュメンタリー『『廃船』を観る会—上映とゲスト・トーク

NHKの秀作ドキュメンタリー『廃

船』は、第五福竜丸の保存が呼びかけられた1969年3月放送の貴重な映像作品です。福竜丸が夢の島に棄てられた1967年、一人のプロデューサーが船を追いました。この船の航海は、原水爆禁止の願いはどこへむかうのか!—展示館開館30周年を記念してNHKの協力を得ての特別上映会。『廃船』のカメラマンと現職プロデューサーによるゲスト・トークがあります。

◇6月10日(土)午後1時30分より4時。場所・学士会館(神保町)、参加費は無料です。

30年記念誌・展示館のあゆみ刊行

第五福竜丸平和協会は、開館30周年の記念出版として「第五福竜丸展示館30年のあゆみ」を6月10日に刊行します。主な内容は次のとおりです。

◇写真でたどる30年／報告・21世紀の第五福竜丸展示館／年表・第五福竜丸と展示館／座談会・第一部＝第五福竜丸・保存から展示館建設へ 第二部＝開館から今まで...市民とともに歩む展示館／各界から寄せられた一言／30年間の感想文から、ほか。体裁・B5版80頁(予定)。記念誌は展示館で頒布されるほか賛助会員、募金協力者に贈呈されます。

資料室の改修すすむ

第五福竜丸展示館の事務室に併設されている資料室の改修がすすみ、書籍、所蔵文献などの閲覧が、5月以降に出来るようになります。今後、目録作成などを順次おこなっていきます。